

だれもが理解し合える社会に

京都府 京丹後市立大宮中学校 1年

岡田 芽依（おかだ めい）

「人権」私は人権と聞いて、いじめ、友達、障害者、差別などいろいろな言葉を思い浮かべます。

私は学校で、「友達を大切にする」「いじめはしてはいけない」と聞いたことがあったり、「自分らしさ」について学習したことがあります。でも、障害者の人についてはあまり勉強したことがなくて、身近に感じたことがありませんでした。店等で見かけると、近寄りがたく思ったり、変だなと思ったりしていました。

そんな私に、大きな出来事が起こりました。それは小学二年生の時、妹の結愛ちゃんが生まれたことです。結愛ちゃんはお母さんのお腹にいるとき病気が見つかりました。それは、「18 トリソミー」という病気です。結愛ちゃんは心臓や脳にたくさんの病気があることが分かりました。無事に生まれてくる確率は6%で、平均寿命は二週間だと言われました。一歳まで生きられるのはほんの10%だとも言われました。さらに、耳が聞こえなかったり、立ったり歩いたりすることは難しいとも言われました。ついに結愛ちゃんが生まれてきました。大きな手術を乗り越えて結愛ちゃんは今四才です。生まれる前に言われていたように、耳が聞こえなかったり、首が座らなくて立ったり歩いたりができなかったり、言葉を話すことができません。他にも、手や足に繋がっている指があったり、食べ物を飲み込むことができないので、鼻から胃まで入っているチューブからミルクを飲んだりします。耳の形も違います。こんなふうに、他の人とは違うところやできないことがたくさんあるけれど、私にとってそれが結愛ちゃん、結愛ちゃんはただただかわいい妹です。結愛ちゃんは、遊んでほしい時は大きな声で叫びます。だっこをしたり、遊んだりしてあげると大きな声で笑って喜びます。私は、人と違うからって結愛ちゃんのことを恥ずかしいとはまったく思いません。それよりも、たくさんの病気の治療をがんばりながら強く生きている結愛ちゃんを自慢に思っています。

前に、結愛ちゃんの繋がった指を見た友達が、すごくじろじろ見てきたことがありました。また、お店ですれ違う人が振り返って見てきたこともありました。そのとき私は嫌だなと思っていました。でも今思うと、

それらはその人が結愛ちゃんのことを知らなかったから、すごく不思議に思っただけなのかもしれません。指の形が違って、耳の形が違って、チューブをしていても、私は何も変だと思いません。それは、結愛ちゃんが生まれた時からずっと一緒にいて、結愛ちゃんのことをよく知っているからです。だから人権を大事にするには、相手のことを知る、知ることができなかつたら想像するということがすごく大切だと思います。

結愛ちゃんが「あーあー」と大きな声を出して「眠たい」「遊んで」と怒るように、他にも障害があつて突然大きな声を出す人がいるかもしれません。そういう人を見ると、「近づきづらいな」などと思うかもしれませんが、でもきっとその人にも怒っていたり、喜んでいたり気持ちがあるはずです。だからそんな時には、その人の気持ちを想像すると「その人にもいろいろ思っていることがあるのかな」と少しでもその人のことを理解できるのではないのでしょうか。

結愛ちゃんは、これまでも今も病気の治療のためたくさん痛いことを経験してきました。毎日一生懸命生きています。結愛ちゃん以外の障害者の人も結愛ちゃんと同じで一生懸命生きています。だからこそ障害のある人を見たら、その人も自分と同じ一人の人間で、一生懸命生きているのだということを考えてほしいです。

人を理解するということは障害者だけではありません。身の周りの友達でも同じです。相手のことをよく知って理解し、気持ちを考えて付き合うことで人権を大事にできると思います。まずは相手のことを「知ること」で「理解すること」ができ、人権を大切にしていけることにつながっていくのです。

私は結愛ちゃんのおかげで、障害者の人と関わるが増えたり、障害がある人のことを考えたりできるようになりました。だけどまだまだ人のことを知らなかつたり、相手がどう思っているかを考えられていないときがあつたりします。だから私も、もっといろいろな人と関わり、いろいろな人のことを知り、相手の気持ちを想像して人と関わっていこうと思います。